

令和4年度事業報告

はじめに

我が国の社会経済情勢は、ロシアのウクライナ侵攻の長期化により、エネルギーや原材料価格の高騰につながり、記録的な物価高をもたらした生活への影響が続きました。

こうした中、県内の景気は新型コロナウイルス感染症等の影響により、先行き不透明感があるものの全体的に緩やかな持ち直しの動きが見られました。

さて、管内の雇用情勢は有効求人倍率が1.09倍（すかがわ統計月報5年4月）で、福島県平均より0.28倍低く、月間有効求職者数は2,307人、60歳以上の高齢者求職者数は520人余で、高齢者雇用の求人は少なく業種により、ばらつきも見られる状況となっています。

このような中で、センターの基本理念である「自主・自立・共働・共助」を堅持しながら、地域社会の「支え手」、「担い手」になれるように、組織体制の充実に取り組みました。センターは地域の方々の日常生活に密着した仕事を会員に提供することを第一に、会員の安全就業と適正就業ガイドラインに沿った事業を展開し、事業の効率的・効果的な運営に努めました。さらに、会員の多種多様な就業就労ニーズに応えるため、より柔軟に対応し事業拡大を図り、会員の生きがいの充実と社会参加への促進、地域社会への活性化に貢献出来るように努めました。そうした中においても、新型コロナウイルス感染拡大防止策として「社会的距離」や「3密」を避けるなどの方策をとり、事業計画に沿って創立40周年事業をはじめ、各種事業を実施いたしました。

事業運営においては、令和5年10月から導入のインボイス制度（適格請求等保存方式）への対応、シルバー会員のデジタル促進に向けた取り組みやセンターが対応できるSDGsの実現、福島県最低賃金の改定に伴う会員配分金の見直しなど様々な課題が山積しました。これらのことを踏まえ、センター事業の安定的な事業運営と健全経営を継続するため、令和5年4月1日より配分金及び事務費を改定し、インボイス制度に対応することとしました。シルバー会員のデジタル促進に向けた取り組みやセンターが対応できるSDGsについては次年度の課題として残りました。

事業実績は会員数536人、就業延日人員は目標62,416日人員より7,397日人員少ない55,019日人員の会員就業による契約金額は3億2千246万円余となり、前年度より665万円余増加しました。令和4年度事業実績は次のとおりです。

(1) 事業実績

単位：人・件・日人・円

事業名	会員	受注件数	実人員	事業別 実人員	就業延日人員	契約金額
事業実績	536	3,689	429	508	55,019	322,465,580
受託（独自）事業	536	3,608	429	283	35,789	208,617,222
指定管理事業		4		72	5,102	19,888,573
シルバー派遣事業		76		147	13,417	93,606,298
職業紹介事業		1		6	711	353,487
前年度事業実績	568	3,696	460	528	55,647	315,810,042
比較増△減	△32	△7	△31	△20	△628	6,655,538

注 上記、職業紹介事業の就業延日人は紹介手数料を頂いた6ヶ月間で、契約金額は賃金6ヶ月分にかかる手数料金額です。

1 会員拡大確保と各種事業の推進

(1) 会員拡大確保事業

センター広報資料・会員知人の口コミなどの入会促進により、新たに37人のシニアがセンター事業に賛同し入会されましたが、「臨時的・短期的就業就労」に賛同し入会するシニアは減少傾向にあります。その要因は、一般企業等での65歳定年延長、60歳からの再雇用を活用した制度などの雇用により、前年度より32人減の入会者となりました。

一方、退会された会員は69人、退会理由は「加齢などによる就業意欲の低下」、「病気」の順となっています。このため、センターが数値目標とした会員620人（全シ協連目標577人）を達成することができませんでした。

また、全会員の平均年齢は74.4歳と前年度より0.5ポイント高くなり、このような状況はここ数年間続いています。こうしたなか、センター事業に賛同し新たに会員になられた方の平均年齢は、68.9歳、退会会員の平均年齢は75.4歳となり、入会退会年齢から見える在籍年数は6年6ヶ月、前年度と比較すると2年程度在籍年数が伸びています。これらは、「健康維持・増進」、「生きがい・社会参加」、「経済的理由」などが主な要因となっています。会員の入会・退会及び年齢別会員状況は次のとおりです。

① 入会・退会状況

単位：人・%

項目 年度別	入会者				退会者				現存数		
	男	女	計	入会率	男	女	計	退会率	男	女	計
令和4年度	23	14	37	6.9	47	22	69	12.8	334	202	536
令和3年度	31	10	41	7.2	30	25	55	9.6	358	210	568
比較増△減	△8	4	△4	—	17	△3	14	—	△24	△8	△32

② 年齢別会員状況

単位：人

項目 年度別	64歳以下		65～69歳		70～74歳		75歳以上		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
令和4年度	9	3	70	36	118	72	137	91	334	202	536
令和3年度	13	4	88	38	133	79	124	89	358	210	568
比較増△減	△4	△1	△18	△2	△15	△7	13	2	△24	△8	△32

(2) 受託事業と独自事業の推進

① 受託事業

公共事業及び指定管理事業はコロナ禍の影響を受け契約金が減少する中、公社公団等に至っては施設管理事業などが再開したことにより契約金が増加、一般企業等においては継続的な就業のほか、新規に就業の依頼が入り、件数及び就業延日人員・契約金が増加しました。

また、個人家庭においても農家からの果樹、農耕作業の受注件数が減少したが全体としては、前年度を超える契約金となりました。

② 独自事業

独自事業はコロナウイルス感染拡大防止の観点から事業を中止することとしました。

公共・民間別事業実績は次のとおりです。

公共・民間別事業実績

単位：件・人・人日・円・%

項目 区分	受注件数	実人員	就業延人日	契約額 (配分金・材料費等)	前年度契約額	増減率
公共事業	478	355	5,329	31,468,651	31,496,847	99.9
指定管理事業	4		5,102	19,888,573	19,986,375	99.5
公社公団等	126		4,784	25,317,954	24,916,775	101.6
一般企業等	1,074		18,935	103,868,802	97,496,303	106.5
個人家庭	1,930		6,741	47,961,815	46,909,691	102.2
独自事業	0		0	0	0	—
合計	3,612	355	40,891	228,505,795	220,805,991	103.4
令和3年度	3,618	373	41,160	220,805,991		106.5
比較増△減	△6	△18	△269	7,699,804		

(3) シルバー派遣事業と職業紹介事業の推進

臨時的かつ短期的又はその他の軽易な業務の基本原則を守り、新規に受注した就労に関しては、会員が長年培ってきた豊富な経験や知識を活かせるよう、事務局職員相互の連絡を密にし、会員・マッチング推進員（県シルバー人材センターが雇用）」と情報の共有を図り、会員の就労機会の拡大と確保に結び付けました。

また、「シルバー人材センターで働く高齢者の就業日数などの上限や請負、委任、派遣、職業紹介といった高齢者の就業形態別の業務方法など」を紹介する就業の冊子を、一般企業等に配布し理解を得られるように努めました。

① シルバー派遣事業

福島県シルバー人材センター連合会からの指導を得て、一般企業等からの新規受注に関しては、仕事の内容を精査し発注先の理解のもと、シルバー派遣事業を希望する会員に就労機会の提供を行いました。

また、発注者や就労会員からの意見・要望・提案などを聞き入れながら事業推進に努めましたが、発注先の生産管理の調整などにより、一部企業から受注中止を受けることとなりました。シルバー派遣事業実績は次のとおりです。

シルバー派遣事業実績

単位：人・日人・件・円

項目 年度別	登録 人員	就業 実人員	受注 企業数	受注 件数	就業 延日数	契約金額 (賃金・手数料等)	
						うちセンター手数料	
令和4年度	219	147	33	76	13,417	93,606,298	14,156,083
令和3年度	209	148	33	77	13,767	94,580,726	14,302,994
比較増△減	10	△1	0	△1	△350	△974,428	△146,911

② 職業紹介事業

「求人者と求職者の間における雇用関係の成立を斡旋する事業（職業紹介事業）」の事業拡大を図るた

め、広報媒体などを積極的に活用し周知活動を行いました。一般企業等においては事業の浸透も浅く、求人も少なく課題として残りました。職業紹介事業の事業実績は次のとおりです。

職業紹介事業実績

単位：人・日人・件・円

年度別	登録 人員	就業 実人員	受注 企業数	受注 件数	就業 延日数	契約金額（賃金）	
						手	数 料
令和4年度	6	6	1	1	711	3,567,031	282,794
令和3年度	7	7	1	1	720	4,271,747	338,663
比較増△減	△1	△1	0	0	△9	△704,716	△55,869

2 安全・適正就業事業の推進

会員の安全適正就業はセンターの根幹であるため、安全管理委員会委員を中心に安全適正就業推進計画を策定し、組織的・計画的に取り組むほか、傷害損害事故の分析などを行い事故防止の一助としました。

(1) 安全適正就業推進計画に基づく事業

安全適正就業推進計画に基づき、会員の就業中・就業途上における事故防止の注意喚起、啓発を行うほか、健康診断受診を進め、就業に必要な場合は診断書の提出を求めるなどを「事務局お知らせ版」を活用し全会員へ周知するほか、会員自ら安全就業への意識高揚に努めた結果、就業中、就業途上の傷害損害事故は前年度より大幅に減少しました。

(2) 適正就業ガイドラインに沿った会員就業

適正就業ガイドラインに沿った業務運営を行うため、発注者からの仕事の依頼については、内容を詳細に把握し、就業する会員に伝達できる体制づくりを推進しました。

また、請負・委任・委託での就業として問題のある場合には、シルバー派遣事業などに切り替えるようにし、臨時的かつ短期的又はその他の軽易な業務にかかる就業の範囲を著しく逸脱していると思われる就業については是正を行いました。さらに、すべての会員がワークシェアリング（公平・平等な就業）に基づき、ローテーションによる就業ができるよう心がけました。令和4年度の傷害損害事故状況は次のとおりです。

傷害、損害事故状況

単位：件

		令和4年度	令和3年度	増△減	備考
傷害 損害 事故	傷害事故 ①	2	5	△3	
	転倒、転落	0	2	△2	
	踏み抜き、刺し	1	1	0	蜂さされ（通院1日）
	挟まれ	0	1	△1	
	交通事故	1	0	1	就業帰宅途上の交通事故
	その他	0	1	△1	
	損害事故 ②	1	4	△3	損害額 148,368円
事故件数合計 (①+②)		3	9	△6	
就業区分	就業中	2	8	△6	
	就業途上	1	1	0	

3 普及啓発事業と相談事業の推進

(1) 普及啓発事業

須賀川市が市民に配布する「すかがわ広報」に併せ、シルバー人材センターリーフレット（シルバー人材センターの就業形態、労働者派遣事業、職業紹介事業について紹介）、シニア募集などを掲載したチラシを不定期に年に複数回、配布回覧を行うほか、住宅密集地を中心にポスティング活動を実施しました。

また、ホームページによる情報発信、広告媒体による普及活動を行うほか、創立40周年記念誌を発行し関係機関団体に送付し普及啓発活動の一助としました。ボランティア活動においては四半期にわたり実施する計画をコロナ禍のため年3回の開催としました。普及啓発事業及びボランティア活動の事業実績は次のとおりです。

① 普及啓発活動

No	項	目
1	須賀川市暮らしのガイドブック（事業概要、仕事の引受け業務内容、会員募集）	
2	須賀川市が使用する回覧板台紙の提供（表紙に会員募集、実施事業の説明）	
3	福島交通バス停車時刻表にセンターステッカー、路線案内アナウンス（須賀川市シルバー人材センター前です。）	
4	シルバー人材センターのご案内の回覧配布（高齢者の就業日数・時間、形態、シルバー派遣、職業紹介）	
5	須賀川市役所ロビー掲示板を活用したお知らせ（センター事業の目的、位置図等）	
6	高速バス時刻表の折り込みにセンター名を記載したチラシの配布	

② ボランティア活動

単位：人

項	目	月 日（曜日）	参加者	備 考
	釈迦堂川河川敷清掃作業（西川地区）	4月28日（木）	46	
	釈迦堂川河川敷清掃作業（西川地区）	10月17日（火）	44	全国シ普及啓発促進月間に伴う活動の一環
	釈迦堂川河川敷清掃作業（西川地区）	3月16日（木）	49	
合 計			139	
前年度（令和3年10月28日実施）			38	

(2) 高齢者相談事業

会員入会説明会開催日に併せてシニア相談会を開催しました。

4 調査研究事業と訓練研修事業の推進

センターの事業運営を円滑に推進するため、関係機関・団体などが主催開催する研修会・講習・セミナーなどに、職員が出席（リモート、オンライン）できるように心がけました。

(1) 調査研究事業

会員の就業に対する意識の変化や就業の実態、在籍会員の現状と問題点などについて把握するため、「会員意識調査」、発注先のご意見・ご要望等に応えるための「発注者満足度調査」を実施し、会員の就業就労に伴うミスマッチの解消を図るとともに、事務局と会員、発注者との意思疎通と連携をスムーズに図れるよう体制強化に努めました。

(2) 訓練研修事業

シルバー派遣事業で就労する会員の研修会を開催し、シルバー派遣事業の基本的なあり方、派遣従事会員の心得などを習得しました。

5 働き方改革と職場環境及び事務局体制の充実

職員個々の能力をひきだし、多様性を尊重する働き方を推進するため、職員就業規則の一部を改正したほか、給与規程の一部を改正し働きやすい環境を作りました。

また、組織強化と事業運営を円滑に行うため、事務費規程の一部を改正し簡略化を図り、事務局体制の充実に努めました。

6 公の施設（指定管理施設）の健全な管理運営の推進

「須賀川市公の施設の指定管理者の指定の手続き等に関する条例」のもと、指定管理者制度により須賀川駅前自転車等駐車場等、須賀川市老人福祉センター等2施設の指定管理者として2年目を迎え、公共施設の利用目的に沿った管理運営を行いました。

須賀川駅前自転車等駐車場等においては、就業体制の見直し、営業時間の短縮など須賀川市関係課と協議し、感染拡大防止対策を最優先に管理運営に努めました。

また、須賀川市老人福祉センター・須賀川市民温泉の2施設はコロナ禍のなか、感染拡大防止策の一環として「社会的距離」や「3密」を避けるなどの方策を取り、須賀川市関係課と協議しながら施設の管理運営に努めました。

(1) 須賀川駅前自転車等駐車場等事業

須賀川駅前駐車場の料金が近隣の有料駐車場より低額のため、利用する市民が増えるなか、JR須賀川駅の改築に伴い西側第1駐車場が須賀川駅前東西自由通路として整備のため、7月から工事車両の駐車場及び資材置き場として使用されることとなりました。これに伴い、JR関連会社と話し合いを行い第1駐車場の使用料を利用料として頂くこととなりました。

一方、須賀川駅前駐輪場においては、自転車の無料点検の日を設定し整備点検を行い、利用者への安全運転について注意喚起を行うほか、須賀川市担当課と情報共有を密に利用者の立場に立った施設の管理運営を行いました。

(2) 須賀川市老人福祉センター・須賀川市民温泉施設事業

会員の長年培った知識、経験を活かしつつ、施設利用者の安全安心を第一に考え利用者の利便性を図るため、施設の一部を修繕するほか、窓口掲示版などを活用し広報活動を行いました。これにより、障害者の利用が増加しました。また、温浴施設等利用者の安全安心の観点から、須賀川市温泉施設及び周辺等に防犯カメラを設置し、施設内及び駐車場周辺の警備・防犯などの事故防止に努めました。

独自事業として実施している須賀川市老人福祉センターカラオケ事業はコロナ禍の影響により、感染拡大防止対策を取りながら本年3月から事業を開始いたしました。

温泉施設の運営を行う中、原油価格及び物価高騰等による燃料費及び電気料金の価格高騰を受け、須賀川市から支援金（須賀川市老人福祉センター等光熱費等高騰対策支援金）の交付を受け事業を継続しました。

須賀川駅前自転車等駐車場等及び須賀川市老人福祉センター等の事業実績は次のとおりです。

単位：日人・円

区 分		令和4年度施設の利用状況		令和3年度利用料金	前年比 (%)
		利用人員	利用料金		
駐 車 場 等	須賀川駅前自転車等駐車場	13,287	3,685,540	3,590,170	102
	須賀川市駅前駐車場	6,223	2,781,600	1,779,900	156
	小 計 ①	19,510	6,467,140	5,370,070	120
福 祉 施 設	須賀川市老人福祉センター	15,451	4,443,480	5,360,570	82
	須賀川市民温泉	83,326	21,721,430	21,760,185	99
	小 計 ②	98,777	26,164,910	27,120,755	99
独自事業（カラオケ利用料等）③		274	505,278	1,069,050	47
令和4年度事業実績（①②③）		118,561	33,137,328	33,559,875	98
令和3年度事業実績（①②③）		124,362	33,559,875		—
事業実績前年度比較 増 △減		△5,801	△422,547		—

事業報告附属明細書

令和4年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和5年6月1日

公益社団法人須賀川市シルバー人材センター